

「現在地に建設」決定に問題

文化会館建設費増大で市議会集中審議

鶴岡市文化会館建築工事の増額予算に対する集中審議が8日、市議会予算特別委員会で行われました。

工事関係事業費に8億400万円を追加し、93億7800万円に、総事業費96億7600万円になることについて、榎本市長は「将来の負担軽減や安全性のため」などと述べ、莫大な工事費になった原因と責任について不透明さが残りませんでした。

工事費増額の内訳公表を市当局が拒否

最初に尾形昌彦議員（新政クラブ）は、工事費増額の項目ごとの内訳を求めましたが、建設部長は、「請負者

地は27年4月から現場

と詳細を話める分があり、合意していない段階で内訳は明らかにできない」と拒否しました。

工事変更の検討経過については、「屋根下

と詳細を話める分があり、合意していない段階で内訳は明らかにできない」と拒否しました。

今後の補修を含めた維持管理については、「ライフサイクルコストは60年使うとして、

ほぼ建設費と同額の80億程度となる」と答えました。

今後の維持管理の財源確保について、教育部長は「ホールや練習場だけでなく、エントランスホールや駐車場も貸出できるような自由度の高い使い方を想定し、使用料の確保に努めていきたい。視察

当初設計の積算不足に問題がある」と質し、建設部長は「資材価格の急激な高騰や設計労務単価の変更など設計時には予測できない。そのためインフレスライド制度がある」と説明しました。

予算内におさめられなかった設計業者の責任と、選定委員会の副市長の責任について質したのに対し、建設部長は「工事費の増額は不可避なものであり、設計者の責任ではない」と述べ、副市長は「全国の設計コンペをやり、その後市民とのワークショップなど3回ぐらい議論して、市民の意見を聞いて決めたものだ」と答えました。

鶴岡市文化会館改築工事の入札のこれまでの経過

2012(平成24)年	
2012年3月	整備基本計画を決定。現在地に改築。建物高さ31m(現会館17m、市役所24.9m)。本体工事費は40億円。総事業費45億円
2012年8月6日	設計業者は公募型プロポーザルで選定された妹島和世(せじまかずよ)建築設計事務所を代表とする妹島・新穂・石川共同体と委託契約を締結(1億2390万円)
2013(平成25)年	
2013年5月30日	基本設計を市議会全員協議会に説明。2016年8月完成めざす。1200席のホールと川-ル室、楽屋6室、練習室2室、会議室2室、展示スペース他。駐車場150台。
2013年10月13日	市長・市議会議員選挙
2013年12月21日	12月議会。本体工事費は資材値上げや消費税増税の影響で当初見込み40億円の3割増の53億円可決
2014(平成26)年	
2014年1月	実施設計公表、市民説明会
2014年2月	旧施設の解体着手 1億4126万円 三浦土建
2014年3月6日	1度目入札不調。3JV全て辞退。業者によれば本体工事費で「13億円足りない」
2014年4月22日	市議会全員協議会。設計労務単価約8%上昇、資材価格上昇により本体工事費を53億円から6億円増額し59億円、総事業費65億8500万円とする説明
2014年4月25日	臨時議会。本体工事59億円、事業費総額65億8500万円可決。大手業者発注を示唆
2014年5月29日	2度目入札。県外大手ゼネコンに枠を広げるも、20日まで入札参加申し込みなく不調
2014年6月25日	3度目入札。資材や仕様を見直し、工期を16年8月から17年3月まで延長。発注枠を地元業者に戻すが、2JVとも辞退し不調。業者「設計の複雑さから外注工事が多く、8億円以上足りない」
2014年7月9日	地元業者が設計の特殊さを理由に技術上の問題で、市長に工事参加拒否を申し入れ
2014年8月22日	臨時議会。本体工事費を一気に19億9000万円増額し78億9000万円を可決。監理業務委託6837万6千円、外構整備約8000万円、既済済みの設計、解体含め工事関係事業費総額85億7400万円。工期を当初から1年延長し2017年8月完成。建築面積6210.55㎡に約113㎡減、延べ床面積7886.56㎡に約216㎡減、建物高さ29.56mに。大手ゼネコンに発注。共産党市議団は反対
2014年9月30日	4度目入札。大手ゼネコンの竹中工務店と地元の菅原建設、鈴木工務店のJVが予定価格73億204万円とほぼ同額の73億円で落札。参加は1JVのみ
2017(平成29)年	
2017年3月	29年度予算で、工事関係事業費に8億0400万円(インフラ1億8700万円、増額工事費5億4000万円、外構工事費7700万円)を追加し、93億7800万円に。備品購入費2億9800万円と合わせ総事業費96億7600万円

市文化会館整備工事の主な変更点

- ①金属屋根下地を、ボードから軽量コンクリートに変更し、耐久性の向上と将来の修繕等工事費の提言を図る。
- ②客席ホール天井裏等の点検用歩廊などメンテナンス用設備の見直し。
- ③大ホールの天井と、エントランスホール等の木製ルーバーの変更で、破損・落下防止。
- ④旧建物の残置杭等の支障による杭工事の打ち直し等の増。
- ⑤施工の合理化による変更(減額)で、地下部分の躯体形状やガラス壁範囲の見直し。
- ⑥連絡用ワイヤレスインカム設備と無料ワイファイスポット、館内サイン等の拡充。
- ⑦外構工事の価格更新。擁壁や柵、致道館境界の池垣などの追加。

予算内におさめられなかった設計業者の責任と、選定委員会の副市長の責任について質したのに対し、建設部長は「工事費の増額は不可避なものであり、設計者の責任ではない」と述べ、副市長は「全国の設計コンペをやり、その後市民とのワークショップなど3回ぐらい議論して、市民の意見を聞いて決めたものだ」と答えました。

(1面のつづき)

総務部長は「市の実質的負担は29億5千万円ほどで、市の責任としては、文化会館をどう市民に使用して頂くかがある。世界的な設計者の施設として注目を浴びるものになってほしい」と答えました。

榎本市長は「変更の度にその都度もっと減額できないかと職員に言ってきた。将来の費用負担の軽減や安全性などの職員の思いを受けて、昨年の12月に苦渋の決断をした」と述べました。

天井について、国交省の建築物の天井脱落対策技術基準は、平成25年8月に交付されている。26年1月に実施設計が行われたわけで、今回の変更はそもそも実施設計に問題があったのではないかと質問しました。

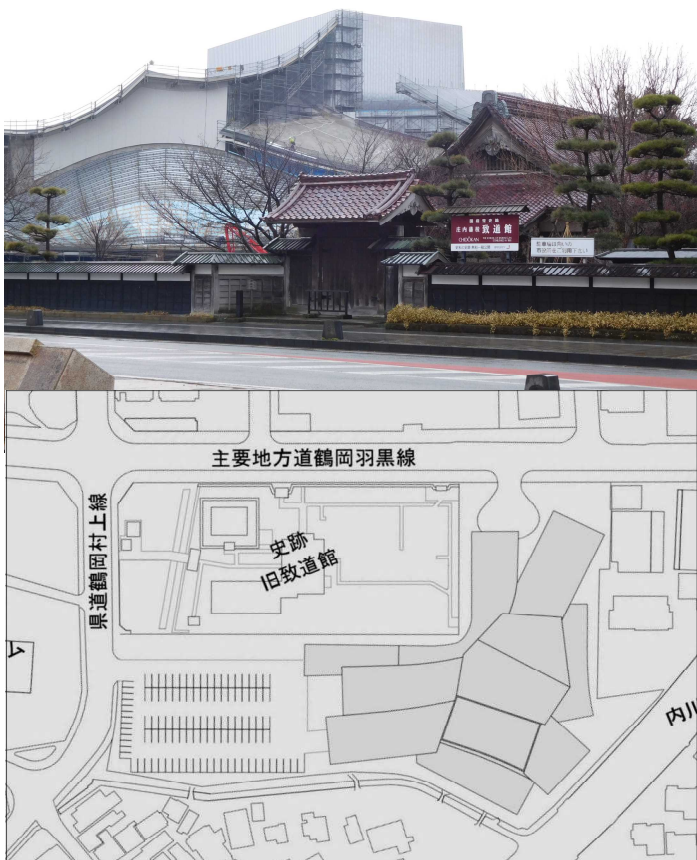
建設部長は、「技術基準交付時には設計は終わっていた。しかし発注時には吊り天井のままだが、この部分を修正して基準を満たすものとしている」と答え、設計時の問題を認めませんでした。

石井議員は、「吊り

入札不調時に建設場所も含めて再検討すべきだった

加藤鉦一議員(共産党)は、「市民の声は、当初計画の倍以上となった工事と、さらに将来必要とされる多額の費用負担について、なぜこうなったのか、その責任を明らかにしてほしいということだ。入札不調時に最初に立ち戻って建築場所も含めて再検討すべきだったし、今回の問題を今後の教訓にすべきだと質しました。

榎本市長は、「文化



上・建設工事中の新文化会館 致道館の背後を圧迫するかのようによびえ立つ 下・新文化会館と周辺の位置図(「実施設計説明書概要版」より引用)

「国民の健康よりも金」の政治

10日(金)の厚生環境常任委員会ではたばこ対策について取り上げ、PTAぐるみの受動喫煙防止

対策、学校での喫煙防止教育の強化、禁煙外来の周知・活用などを求めました。

担当課長はそれぞれについて推進を図る旨答弁、最後に医療統括官から「喫煙は嗜好ではなく、医学的には依存症という病気である」等答弁がありました。

国内で年間13万人がガン・循環器疾患・糖尿病等、たばこに起因する病気で亡くなるなど、喫煙が健康を阻害する最大の要因である

ことは、医学的には議論の余地無く証明されています。

しかし日本では、高額課税、広告の規制、パッケージシへの有害性の表示など、先進国では当たり前前の施策が採られず、健康被害が放置されています。

それはなぜなのか?

日本禁煙学会の発表によると、たばこ業界から自民党に年平均1800万円の政治献金が配られています(大沼瑞穂参院議員にも)。歪んだ自民党政治によって命と健康が脅かされる構図がここにもあります。(具議 関 徹)

会館は自信を持って誇れる建物だ。ただ45億円積算の時点と、その後の経過で物価や人件費の高騰を考慮していたきたい。責任は、施設を完成をさせ、どう運用するかで市民から審判を受けていきたい」と答えました。

加藤議員は、「江戸時代の致道館があり、住宅が近くにあるL字型の敷地に、30坪近くのフライタワーをもつ施設をつくることから、あのような複雑な屋根の設計となり、多額の費用がかかることになった。現在地に建設するという決定そのものに根本の問題があった」と述べました。

他に佐藤久樹・田中宏・渋谷耕一・佐藤博幸・佐藤峯男議員も質問しました。

「建設場所に問題」設計者自身も認める

市文化会館の設計者である妹島和世氏は、東西アスファルト事業協同組合講演会で、鶴岡市文化会館の設計について、「敷地の前に低い藩校の塀があった、この辺一帯が公園

地区にもなっています。このホールは、地域の中で飛び抜けてスケールが大きいものになってしまっているので、周辺に向かうほどスケールを落として、なるべく屋根の裾野が公園文化地区に繋がっていくようにつくろうとしています。」と語り、建築場所の問題が複雑な屋根を持った設計になったことを述べています。

この設計の複雑さから、地元業者の工事参加拒否の申し入れや、大手ゼネコン発注と工事費倍増となる現在の状況に至っています。

建築評論家で武蔵野美術大学教授の松葉一清氏は、「現代建築のトリセツ」(PHP研究所)で、現代建築について「しばしば『建築脳』とでも呼ぶべき専門家にだけ通じる価値基準で追い詰めていくと、税金という公金を浪費しかねない『底なし沼』にはまってしまう。

確たる『個』としての市民の視線が『現代建築』の評価には不可欠です。」(244頁)と書いています。

土木課入札結果 () 内は予定価格

- 3月9日入札分
- ・大山馬町線道路改良工事(債務負担行為)(馬町地内)(入札8業者うち1業者辞退)
- (有)今野建材工業 8,860,000円 (9,211,000円)
- 工期~7/18 (落札率96.2%)
- ・本町三丁目井岡線道路改良工事(債務負担行為)(本町三丁目地内)(入札11業者)
- 小野寺建設(株) 15,780,000円 (16,305,000円)
- 工期~7/31 (落札率96.8%)

南部建設事務室入札結果 () 内は予定価格

- 3月9日入札分
- ・市道中学校板井川線歩道舗装工事(債務負担行為)(東荒屋地内)(入札7業者うち1業者辞退)
- (株)田川 2,280,000円 (2,329,000円)
- 工期~6/16 (落札率97.9%)